（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和４年度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立朝霞高等学校　定時制の課程 ）

目指す学校像	勤労を愛し、誠実で、他の人権を尊重し、協力し合える社会性のある生徒を育成する。

重 点 目 標	1　生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を確立させ、基礎学力の定着を図る。 2　生徒の進路意識を高め、進路実現のための支援を行う。 3　生徒一人ひとりの自己肯定感を高める取組を展開する。 4　定時制の教育活動等を積極的に情報発信し、開かれた学校づくりを一層推進する。

※ 重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
達成度	A	ほぼ達成　（８割以上）
	B	概ね達成　（６割以上）
	C	変化の兆し　（４割以上）
	D	不 十 分　（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学　校　自　己　評　価							学　校　関　係　者　評　価
年　度　目　標				年　度　評　価　（令和５年２月１日 現在）			実施日 令和５年　月
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	■現状 ・授業に取り組む態度・姿勢についての回答が５８％と昨年度から改善していない。加えて、予習・復習をしていない割合は７４％と極めて高い。 ■課題 ・授業に参加するにあたり、授業規律を意識させ、実りある時間とさせる。 ・授業外での学習を短時間でも習慣付けるよう、学習への興味関心を高める工夫や授業改善を行う。	■確実に基礎学力・技能を身に付けさせる「分かる」授業を行い、さらに自ら考え「主体的に学ぶ」態度を育成する。	①教科担当が１名のため、専門にこだわらず、指導案の工夫、生徒の反応など情報共有を図る。 ②少人数の利点を生かし、初任者研修・年次研修の校内研修に、他の教職員も参加し、授業研究などを行う。全日制との協力や外部の研修への参加を通して、より専門性を高める。 ③生徒の状況・事情に個別に対応できるよう、学習サポーター、多文化共生推進員を効果的に活用する。	①②授業研究や授業見学の実施状況。 ①②学校生活についてのアンケート結果で「基礎学力が身についた」「授業は分かりやすい」との回答が８割以上になったか。 ①②授業に臨む「態度・姿勢」、「授業外での学習について」の肯定的な回答の割合が８割以上になったか。 ③アンケート結果で、学習サポーターや多文化共生推進員が関わった生徒の満足度の割合が、８割以上になったか。				.
2	■現状 ・「進路についてよく考えるようになった」は６ポイント、「進路行事に積極的に参加している」は２０ポイントの増加であった。残りの３０％の生徒について進路意識の向上を図りたい。 ■課題 ・今年度新たに行った取組の充実を図る。 ・入学から卒業までの進路活動をまとめた「進路のしおり」を導入する。	■生徒の進路意識を高め、希望の進路実現を図る。	①生徒の進路意識を高めるため、進路行事・ＨＲ・総合的探究の時間を融合させた取組をはじめている、それらを更に充実・改善する。 ②全体的な指導では手当できない個別の問題に、学年・進路指導部により進路面談を積極的に実施する。 ③外部の人材の活用を積極的に行い、就職の範囲だけでなく、生活環境全般の支援を行う。	①生徒アンケートにおいて、「自分の進路についてよく考えるようになった」との回答が８割以上になったか。 ①生徒アンケートにおいて、「進路行事に積極的に参加している」との回答が８割以上になったか。 ②③アンケート結果で、進路支援に対して「役立った」と回答した割合が８割以上になったか。				.
3	■現状 ・新型コロナウイルス感染防止対策を図りながら、工夫して行事を行ったが、内容を変更・削減せざるを得なかった。 ・様々な課題により登校できなくなる生徒が出ている。 ■課題 ・行事の活動制限や状況に応じて、さらに工夫を凝らし、より活動を充実させる。 ・支援を必要とする生徒に対しては、担任を中心として、特別支援委員会を中心とした全職員が積極的に関わり、情報共有と分析をもとに改善に向けての継続的な支援が必要である。	■学校行事及び特別活動を、生徒を主体とした活動とし、生徒の自己肯定感を更に高めるものとする。	①学校行事、生徒会行事の内容をより充実させる。 ②学校行事、部活動、生徒会行事への参加を積極的に働きかける。 ③生徒・家庭の経済的な状況を鑑み、部活動等への参加について支援策を探る。	①③アンケート結果で、「学校生活は充実している」と回答した割合が８割以上になったか。 ②③「学校行事、部活動、生徒会行事へ積極的に参加した」と回答した生徒の割合が７割以上になったか。				.
		■個別面談や外部専門機関、出身中学校との連携を図り、適切な生徒支援を行う。	①支援が必要な生徒を早期に発見するため、個別面談の機会を設け、生徒の課題を積極的に把握する。 ②担任や特別支援委員会等の校内組織と外部機関（市役所福祉担当、SC、SSW 等）、出身中学校との連携を図る。	①適切に個別面談等を行うことができたか。 ①②悩み事があった生徒に対して、適切な支援ができたか。 ①②退学や転学の生徒異動の人数。				.
4	■現状 ・新型コロナウイルス感染防止の掛け声の下、様々な広報活動が制限されており、ＨＰでの情報発信が唯一の方法となっている。 ・ ■課題 ・ＨＰを十分に活用して、積極的な情報発信を行っていく。そのために、ＨＰ運営や更新の担当や方法を確立していく必要がある。	■現在の状況を踏まえて、定時制課程の教育活動について積極的に情報を発信する。	①中学生やその保護者等が入学前に定時制の生活を実感できるよう、日々積極的に学校の活動を発信する。 ②中学生・保護者の学校見学や訪問の希望には、感染防止対策を十分に配慮しながら、積極的に対応していく。	①ホームページの更新回数。 ①閲覧回数。 ②学校見学の問い合わせ回数、学校見学来校回数。				.